

平成27年度 小郡市地域福祉計画策定委員会 議事録

○日時

平成28年3月30日（水）15:00～16:55

○場所

小郡市役所 西別館3階会議室

○会議内容

保健福祉部長のあいさつ、委員自己紹介の後、委員の互選により、丸山泉委員が会長に、坂田耕三委員が副会長にそれぞれ承認された。

丸山会長のあいさつの後、事務局より、計画策定から今日までの経過報告を行った。

その後、会長の議事進行により、2つの議題について、以下のような議論が行われた。

【議題（1）地域福祉計画「重点的な取り組み」の実施状況について】

○事務局より、配布資料を使用しながら、説明を行った後、以下のような協議が行われた。

（会長） 議題は実施状況について。その観点からは弱い気がする。（英国の認知症の人に対するアウトカムについて説明（資料を配布））今回のまとめはこれでいいが、次に展開するときに、評価の方法、進捗状況について、何らかのゴール目標を設定し、それにどれだけ到達したか、実施状況を判断することが大事。行政のマンパワーなど難しい部分はあるが。ご意見はないか。

（委員） お尋ね。「個人情報共有の推進」について。高齢者台帳の説明があったが、その他の様々な支援を必要としている方に対してはどのように考えているのか。

（事務局） 高齢者の見守り台帳を障害のある方も、認知症の方も災害時の要援護者の方も一元的に把握できる台帳様式に切り替えていくために見直しを行っている。まず、28年度は、高齢者の見守り台帳を新たな様式に変更して、その後、障害のある方、地域の中で把握されている日中の独り暮らしの方、認知症の方を把握していく動きにつなげていきたい。

（委員） 大保原区で独自に情報を集約しようという動きがあったが、その後全然動きがなかった。今後全市的に行っていくと考えていいか。

（会長） 情報収集の時、個人情報の説明は？

（委員） 行政区で2～3年前に行われたもので、個人情報に関する文言はあったと思うが、それがどう共有されて、使われるのかという説明はなかったと思う。

（会長） これは大事な課題。今後、災害時の個人情報の開示等についても、アフターケアも含めて個人情報を管理していく考えを行政が持っていないといけない。

（事務局） 大保原区で障害者の方々も含めた台帳をつくられたのは、災害時の支援台帳を独自に作るという動きの中でのことだと思う。台帳様式の変更については、使用目的等をきちんと説明したうえで本人同意をいただくという形で、まずは高齢者の方々からスタートしようと考えている。民生委員児童委員協議会とも協議している。

（委員） 私たち家族も地域とつながってほしい。地域の人に障がいのある子どもなど、いろいろな子どもがいるということを理解してもらい、顔が見える関係で一緒に生活していきたいという思いがある。

（委員） 申請を断られた方はどのするのか。

（事務局） 難しい課題。現状は、民生委員児童委員が個人的に抱えている状況。ただ、問題となる

のは、災害時。民生委員児童委員だけでは支援できないので、必要最小限の情報は、地域の見守りの中で活用できるような取り組みを進めていかななくてはならないと考えている。

(委員) (民生委員児童委員の立場で) 個人情報については、こちらからお誘いして、相手の手上げ方式という形。趣旨を説明するが、NOという方がおられた場合、強制はしないが、NOと言われた方を民生委員児童委員の活動の対象から外すことはできないので、苦勞している。

(会長) 小郡市の人口は6万弱なので、規模的には、細かいネットワークの網でも対応できると思う。ボトムアップやコミュニティを増やすことである程度できる可能性がある。

(委員) 年度が替わり、新しい担当の方が見守りで声をかけたら、なんで一人で暮らしていることを知っているのかと言われる方もいる。多くの方は喜ばれるが、イレギュラーな方の個人情報の管理が難しい。

(委員) 古賀区の総会で協働のまちづくりの部会の活動報告をしてもらった。古賀区には3名の民生委員児童委員おられ、一人70名ほどを担当している。災害の時の対応が非常に難しい。区民の意識を変えていかないといけない。

(会長) 民生委員児童委員さんや区長さん方の苦勞は本当に分かります。コミュニティの脆弱さに対応できる次の知恵を出していかななくてはならない。次の議題に。

【議題(2) 各課における事業。取り組みの実施状況について】

○事務局より、パワーポイントを使用しながら、説明を行った後、以下のような議論が行われた。

(委員) みくにの団地の取り組みのリサイクル推進事業は、学校としての取り組みなのか。

(事務局) 学校との連携ではなく、自治会の皆さんが働きかけ、高齢者と中学生のつながり作りと高齢者の見守り支援を兼ねたところで取り組まれているもの。

(委員) (社協会長) 福祉委員については、色々な考え方がある。松崎区では、区議員に福祉委員をお願いしている。実際には福祉委員としてではなく、区議員として活動していると思う。まだまだ実態の把握が必要。社協としては、協働のまちづくりの健康福祉部会が入ってくると、福祉委員はこのような形がいいと言いつらい。協働のまちづくりの組織は地域の実情に応じて違ってくる。そのあたりに社協としてジレンマがある。

(会長) 従来型のシンプルな社会構造の場合、上からでよかったが、複雑な課題には複雑な対応が必要。今日のプレゼン以外にも様々な取り組みがあると思う。そのリーダーをつなぐ組織はないのか。そこにキーワードがあると思う。各リーダーのネットワークを利用するという発想はないのか。

(事務局) 現在、リーダーの連絡調整会議の様な位置づけのものはまだできていないが、社協のふれねの推進会議が一定の役割を担っていただいているのかなと思う。

(会長) そこでやってもらうのも一つの手かもしれない。人的リソース、地域におられる方の拾い方が弱いと思う。従来型の行政的発想では今の時代に対応できない。複雑な事例への対応モデルをつくらないと無理かもしれない。

(委員) (古賀区長) 古賀区では民生委員児童委員の下に福祉員が15名ほどいる。区の役員ではなく、普通の地域の人達で、見守りをしてもらっている。

(会長) 従来の形とボトムアップの形を一緒にして動かさないと動きづらくなると思う。今の人たちは、非常に権利意識も強いし、個性的なので。

(委員) 美鈴の杜に住んでいるが、自治会としても2年目なので、聞いて勉強することばかりだが、自分たちが住む地域で自主的にやっていくということが非常に大事なんだと思う。もっと声を出していかないと。

- (会長) すすでにおられる人的リソース、リーダーをうまく繋ぐこと。例えば、そこで今日のよう
なプレゼンをして、地域の事例を紹介し、他の地域を啓発するという循環にもっていきな
いとなかなか難しいと思う。
- (委員) 地域福祉活動計画策定の中で福祉協力者の手当てが欲しいという意見がいっぱい出たと
聞いた。目指している無償ボランティアと、やらせるならお金を下さいという意識の人が
いる。私は鰹坂に住んでいるが、なんでも回り番。必ず回ってくる。それは基本無償。公
的なものは何でもお金を出してくれるという意識を変えないことにはできない。見守りに
ついては、民生委員児童委員や担当者を決める組織作りというのも大事だが、やっぱり自
助だと思う。自助の雰囲気作りはどうすればいいのか考えているが、難しい。
- (委員) 取り組み状況の様式は同じだが、中身については、データを細かく書いてあるところと
無いところがある。データが載っていると評価ができるが、評価ができにくいものがある。
どれだけ進んだかが見えるといいと思う。
- (会長) お金は無制限にはない。優先順位をつけてやっていくためにも評価が必要。
- (委員) 区民同士のつながりができていないと感じる。公民館活動が活発かそうでないかわか
る。いかに公民館活動を活発化させるかが大事。それと校区のまちづくり協議会等の中
での情報交換が必要ではないか。
- (会長) 対話の場が必要。また、活性化の話があったが、例えば、行事に延べで千人参加したと
しても、10人が100回来たのかもしれないので、評価の基準が必要。その地域の何人
が参加してすそ野が広がったのかということが重要。今日は結論を出す必要はないが、い
い議論ができたと思う。今後のスケジュールを事務局より。

【6. その他 今後のスケジュールについて】

事務局より、今後のスケジュールについて次の説明を行った。(ふくしらんガイド配布・説明)

- 今日のいただいたご意見等は、庁内の推進会議の中で報告し、28年度の取り組みにつなげて
いきたい。
- 庁内の担当所管課が協働という視点で自らの事業を客観的に評価することに慣れていないた
め、資料については、不十分な点があったかと思うが、年次的に進めていく中で、庁内でも協
働の視点を養っていきたい。
- 次回の開催時期は、まずは平成28年度の事業を進める中で、会長とご相談し、必要な時期に
ご案内させていただきたい。

【7. 閉会のあいさつ】

- (副会長) 資料の「地域福祉計画重点的な取り組み実施状況」の福祉協力者のアンケート結果で「約
7割の行政区で福祉協力者が配置されている。」という表現があるが、現実には、協力しても
らっている方がいる、このような肩書の方がうちの地区にいますよという数字。待遇の問題
や位置づけの問題等色々な問題がある。現実、地域で福祉委員等と呼ばれる方と一緒に見守
りに行ったときに、「あなたは何？」と言われても、位置づけがない。大きな問題として、
現在、市、社協に検討してもらっている。地域福祉を前に進めていくためには、誰がするの
かというのをしっかりと仕組みないといけない。例えば「会社を卒業したら地域に貢献しま
す」、「何か活動したい」という人はいっぱいいるが、現実的には、うまくいかない。ぜひ市
も頑張ってもらいたいし、私たちも協力させていただきたい。